

# 環境省 (Ministry of the Environment)

## はじめに

平成十二年六月、通常国会において循環型社会形成推進基本法等リサイクル関連法の六本が一挙に成立しました。地球環境と共生できる新たな社会を築くことの必要性が広く認識され、持続可能な社会へと導く基礎となる制度が創設されたのです。

平成十三年一月六日、中央省庁の再編に伴い発足する環境省は、未来の社会の明るい展望を示しつつ、国民との連携を深め、日本中の至るところで様々な人が行っている環境保全の取組を促進し、強化していくことを目指します。

## 環境省発足に至る道のり

環境行政は、その時々の様々な環境問題に対する国民の意識の高まりと連動して進展してきました

た。国民の志向を反映して、問題に対応するための制度が構築され、また、国民の志向を実現するために、任務が与えられ、行政組織が編成されてきたのです。

### (1) 公害問題の発生

環境問題は、まず産業の発展に伴う公害問題として現れてきました。公害の歴史は近代産業の導入とともに始まりましたが、その問題の重要性は幅広く認知されず、昭和三十年代に至るまで、学校の校歌や県歌、市歌などで工場から排出される煙が経済成長を示す希望のシンボルとして唱われたほりでした。

### (2) 環境庁の発足

しかし、その後、公害の全国への蔓延まんえんやそれに対する問題意識の高まりを受けて、公害問題に総合的に取り組むため、昭和四十二年公害対策基本法が制定され、それ

を契機とした公害対策の充実強化が急速に進み、四十五年の国会では合計十四の公害対策関係の法律の制定・改正が行われ、翌年七月、環境問題に総合的に対応するために環境庁が創設されました。

こうしてつくられた環境庁は、自ら環境保全施策を実施すると同時に、政府全体の環境保全施策を総合的に推進するための調整を行うというユニークな官庁でした。発足した当時の環境庁はいくつかの建物に分散して仮住まいする「タコ足庁舎」であり、十四省庁から出向した五百人の職員で編成されていました。長官官房の置かれた東京・代々木の木造庁舎で、部屋に人が集まると床が抜けるのではないかと心配されたほどだったと言われています。

### (3) 環境問題の変化

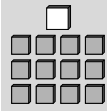
環境庁の発足後、その後の国際

情勢、経済活動、ライフスタイルの変化により環境庁が対応しなればならない環境問題の範囲は、有害化学物質問題、地球規模の環境問題、廃棄物問題、生態系の保全問題等、世代を越え、国境を越えたものへと一貫して広がってきました。現在では、自動車排出ガス問題なども含め、国民のすべてが被害者であると同時に加害者でもある形の環境問題が深刻となっています。

これらの問題の解決には一人一人の環境保全意識の変化や関心の高まりが必要であり、社会をそのような方向に向けていくため、中央省庁の再編を機に環境保全を一元的に担う組織として、環境省が発足することになったのです。

## 環境省の発足

環境省の発足により、環境行政



はどのように変わるのでしょうか。

最も大きく変わるのが廃棄物行政です。冒頭で述べたように環境省の発足と軌を一にして、リサイクル関係の法制度の整備が大きく進んだことからも分かるように、今一番深刻なのが廃棄物・リサイクル問題です。

従来リサイクル対策は、個別の容器・包装、家電等の個別の商品に着目したそれぞれの所管省庁に

より行われてきました。また、廃棄物対策は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」を所管する厚生省によって担われてきました。しかし、廃棄物の量は一貫して増え続けており、不法投棄等や、ごみ焼却所からのダイオキシンによる大気汚染排出や土壌の汚染などの問題も、最近になって次々と明らかになってきました。

このような廃棄物問題の対策として新しい処理場の建設や不法投

棄の取締りの強化等の対策が講じられていますが、この問題の根本的な解決方法は大量生産、大量消費、大量廃棄のライフスタイル・ビジネススタイルを改めて廃棄物の量を減らすことです。

廃棄物を減らすには、まず物の製造の段階からそれが最終的に廃棄される段階に至るまで、そこにかかわる様々な人が努力しなければなりません。そのためには、そうした努力をしやすいように廃棄物対策と生産から廃棄に至るまでの物の流れ全体を通したリサイクル対策を一体的に運営し、循環の輪を形成するように制度、誘導策などを導入することにより、ライフスタイル・ビジネススタイルの転換を支援していくことが必要です。

こうした課題に対応するため、今回の省庁再編に伴い、環境省に廃棄物・リサイクル対策部という組織を置き、廃棄物対策とリサイクル対策を一体的に運用します。これにより、地球環境と共生する循環型社会が構築されていくことが期待されています。

一人一人が見直していかなければならない大量消費、大量廃棄のライフスタイル

また、環境省は、このほかにも我々の日常生活に入り込んでいる化学物質への対策から地球温暖化対策に至るまで、様々な環境問題に一元的に責任を持ち、取り組むこととされています。つまり、環境省は環境の保全という新しい観点から、目指すべき理想の社会像を提示し、それをつくり出していくことを任務とする組織として誕生します。

### 環境省の目指すもの

環境問題の根本的な解決には一人一人の努力が必要です。環境省はすべての人々と共に環境問題を考え、共にその解決に当たっていく役所でありたいと考えています。そのために、分かりやすい環境情報の提供、一人一人が取り組める解決方法の提示、また、そうした努力を支援するための制度づくりを進めていきたいと考えています。二十一世紀は環境の世紀と言われます。新しい時代にふさわしい新しい社会を皆さんと共に築いていく、そのような役所を環境省は目指しています。(環境省)